

研究課題		視覚/映像社会学とビジュアル・リサーチ・メソッドに関する研究 (13)
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>近年、我が国でも Visual Sociology への関心が高まり、研究成果も蓄積されるようになってきた。しかしながら、Visual Sociology を「映像社会学」と表現する研究者と「視覚社会学」と表現する研究者との間には、大きな溝が横たわっている。大雑把に言えば、前者は映像／画像データ（ないしメディア）を用いた“方法としての「映像」社会学”が、後者は「見る／見える」営みや経験そのものをテーマ化する“対象としての「視覚」社会学”が、それぞれ含意されている。本研究は、両者の溝を埋め（私は「ビジュアル社会学」と呼称する）、我が国における「実質的な Visual Sociology 事始め」を宣言して、研究を継続し成果を積み上げるものである。</p> <p>2018 年度までの成果をリレーして、13 年目の研究として実施した。</p>
	研究の結果	<p>私は、1994 年度より研究室で学生と共に“写真で語る：「東京」の社会学”と題するプロジェクトに取り組んでおり、その中から「集合的写真観察法」と呼ぶ新しいビジュアル調査法を開発し実践を積み重ねている。プロジェクトの成果に関しては、学内での展示発表やウェブでの公開の他に、学会発表・講演や論文なども既に多数発表している。こうした蓄積を土台にして、日本より 30 年程先に進んでいる欧米の Visual Sociology Movement の成果をレビューして吸収しつつ、当研究室のプロジェクトの成果をそうした研究史の中に位置づけて、共通性と特異性を明確にし、独自の「ビジュアル社会学」の構築を進めている。</p> <p>本年度は、上記プロジェクトの成果として、2019 年 11 月 1 日（金）～3 日（日）の桜麗祭で展示発表すると共に、第 9 回シモタカ・ジョースイ映像祭及び世田谷区交流事業報告会において研究室の社会学的映像モノグラフとして北海道中川町関連の作品を公開した。2020 年 3 月には、それらの全てをウェブサイトで公開した。</p> <p>静止画（写真）と動画（ビデオ）による社会学的研究をさらに進展させることができた。</p>
	研究の考察・反省	<p>ビジュアル社会学ないしビジュアル調査法に関する研究成果は着実に蓄積され、学部及び大学院での社会学及び社会調査教育の場面でも定着するようになると同時に、学会での認知度と評価が格段に上がっている。関連する出版物も多く見られるようになってきた。</p> <p>現在、本プロジェクトとも関連性を有する、私が研究代表者を務めビジュアル調査も実施した科研プロジェクト「交通インパクトの社会学的効果に関する研究—量と質とビジュアルの混合研究法—」（2014～17 年度）の成果を取りまとめ、2020 年度中に出版する見通しである。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【発表】</p> <p>1)2019 年 12 月 14 日「第 9 回シモタカ・ジョースイ映像祭」で、映像ドキュメンタリー「北海道中川町のナカガワとソトガワの相互作用—人口 1,500 人 小さな町の社会実験—」を上映</p> <p>2)2020 年 2 月 24 日中川町交流情報発信拠点施設運営協議会「世田谷区交流事業報告会」（北海道中川町生涯学習センター）にて、社会学的映像モノグラフ「命と文化を育むブリコラージュ—北海道中川町 小さな町の社会実験—」を上映</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>【成果物】</p> <p>3)ビジュアル調査方法を詳細に記述した（本プロジェクトについても紹介している）共編著『新・社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房、2013 年 4 月刊）の第 8 刷を 2019 年 11 月に刊行</p> <p>4)『日本大学文理学部社会学科後藤範章研究室 2019 年度成果報告書（後藤ゼミブックレット 2019）』（2020 年 3 月刊）</p>	